

全国ブロック支援活動報告（山形市）

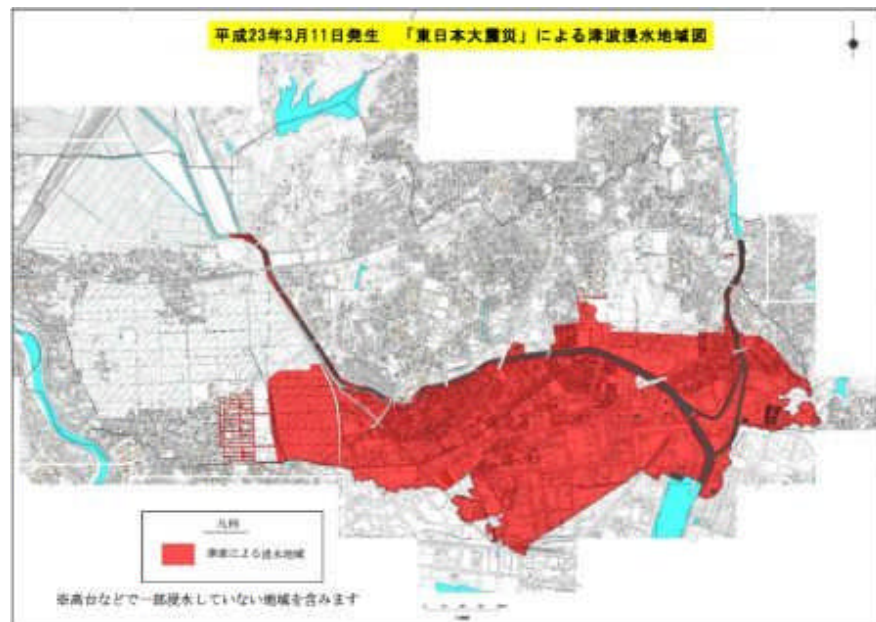
（１）支援先自治体及び状況

支援先自治体：宮城県多賀城市

状況：

津波で砂押川南側，鶴ヶ谷・丸山の一部，大代地区の約 662ha が浸水し，市内の 1/3 が被害を受けた。

震災から 2 ヶ月経過した現在の状況は，道路上の瓦礫や土砂はほぼ撤去されている。部分的に道路の段差や信号機の停止している個所が見受けられたが，護岸の応急復旧工事や舗装工事など復興に向けて着実に進んでいる。



（２）支援人数

山形市 3 名（土木 3 名）

天童市 2 名

（３）支援期間

5 月 16 日（月）～5 月 22 日（日） 7 日間

16 日（月）山形市出発→多賀城市到着

午前：下水道課で概要説明

午後：現地調査（栄地区），調査結果の整理

17 日（火）～21 日（土）

現地調査（桜木地区），調査結果の整理

22 日（日）調査結果の整理

多賀城市出発→山形市到着

(4) 下水道管渠の状況

地震の揺れによるマンホールの浮上や躯体のずれ・破損が部分的にあったものの、津波の影響でほとんどの管渠内に土砂が流入していることが確認された。

特に幹線ルートについては、汚水が滞水しており被害の大きさが窺える。



(5) 一次調査の活動状況

津波の被害を受けた対象区域内の全マンホールの開閉を行い、被災があった場合に限り調査票に記入し写真撮影を実施した。

調査したマンホールは 579 箇所、その内異常があったマンホールは 365 箇所で約 6 割の箇所では何らかの異常があった。調査の結果、2 次調査が必要とされる延長は 10,343m となった。



(6) 支援活動を通しての感想

今回の支援活動を通して感じたことは、管渠内に海水が浸入したことでマンホール蓋が錆びつき、開閉作業に手間取り調査が進まなかったこと。また、排水設備から侵入したと思われる大量の土砂が管渠内に堆積し、汚水の流れを阻害していたことがあげられます。

水道施設に比べ下水道施設の復旧は後回しになりがちですが、下水道施設は市民生活に重大な影響を及ぼすことから、耐震化を推進していく必要性を改めて実感しました。

最後になりますが、私たちの支援は微力なものでしたが、多賀城市の 1 日でも早い復興を願っております。